

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年8月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071500930
法人名	株式会社 ゆうわ
事業所名	グループホーム ユウワ
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市出雲町1番地15 (電話) 0944-55-1117
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年7月9日

## 【情報提供票より】(平成20年5月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	24 人
利用定員数計	18 人
常勤	20人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.5人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日あたり1,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	有( ) 円	無 <input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年5月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.9 歳	最低	72 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田共立病院 中友診療所 おおの歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大牟田市の中心部の高台に位置するため眺望も良く静かな環境の2ユニットのグループホームである。家族や利用者の負担の軽減を第一に考慮して利用料を低額に設定している。家族関係が希薄な方に対しては、職員との関わりの中で日常的に楽しく暮らしていただけるように努め明るい雰囲気を出している。そういう背景もあり、市の保護課や病院等からの問い合わせも多い。また、地域の中での関わりを大事にしており、事業所独自で地域の道路清掃を行ったり、幼稚園児や子供会との交流にも努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について全職員で検討し改善項目に組み込み、運営推進会議でも提案し市の担当者にも相談して、具体的な改善を行なった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に外部評価の意義や目的を伝えた上で、全員が一通り自己評価に組み込み計画作成担当者や管理者が取りまとめて記入したものを、再度全職員に渡すようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地区・校区の公民館長、民生委員、家族代表、あんしん介護相談員、市・包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月毎に開催している。事業所の取組みや現状報告、前回の改善事項の経過報告等を行ない、協議内容については記録しサービスの質の向上に努めている。また、外部評価については報告し、前回の結果についても見やすいように掲示している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	特に、意見箱は設置していないが、家族からの意見や相談がある場合には直接職員に伝えられる事が多く、その都度話し合い検討している。重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口と公的機関の窓口及び電話番号を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	この地域に町内会や老人会はないが、地区の公民館活動が行なわれており年1回の総会に参加し地域の情報を得ている。総会の中で大正琴の演奏やボランティアの紹介を受けることもある。近くに生長の家があり、そこの研修会の一環として子供たちとの交流を持っている。日常的には、利用者と共に社会福祉センターに行き地域の方たちと楽しい時間を持つようになっている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い、これまでの理念を見直し「家族や地域との支え合いの中で、その人らしく暮らして頂き、『ゆうわ』でよかったと思われるように努めます。」と、地域、利用者、家族のニーズにあった地域密着型サービスとしての役割を目指した内容に作り直した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で話し合い決めた理念であり、内容についても理解している。研修会の場などでも、管理者と職員は理念の共有と実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の公民館活動が行なわれており年1回の総会に参加し地域の情報を得ている。総会の中で大正琴の演奏やボランティアの紹介を受けることもある。幼稚園児の訪問や近所の小学生や成長の家の研修者との交流を行なっている。また、定期的に道路清掃をしたり、利用者と一緒に福祉センターへ出かけたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に外部評価の意義や目的を伝え、自己評価にも全員で取り組み管理者が記入したものを再度、全職員で確認した。前回の評価結果を活かし全職員で検討し、具体的に改善を行なった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地区・校区の公民館長、民生員、あんしん介護相談員、市や包括職員の参加を得て2ヶ月毎に開催している。事業所の取組みや現状報告を行い、前回の会議で取り上げられた検討項目についての経過報告を行ない、議事録を作成している。また、外部評価についても報告し、改善項目への意見を聞きサービスの質の向上に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へ電話による相談をしたり、役所へ出向き担当者に相談することもある。市の担当者から生活保護や低所得者受け入れ等の相談もある。市主催の勉強会や会合には参加し意見交換を行う等、市の担当者との連携を取っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	現在、この制度を利用されている方が2名おられ、今後必要な方には関係機関と相談し利用ができるような体制がある。勉強会にも参加し伝達研修を行い、全職員が制度について理解しており、必要な方には説明ができるように、パンフレットや資料も準備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には職員の方から声かけをし、利用者の日常の暮らしぶりを報告したり、小遣い帳がある方には金銭出納を明示しサインを頂いている。定期的には家族の方には写真同封で手紙を出している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が来園時に親しく会話し、意見や苦情も気軽に話してもらえるよう働きかけている。改善点は全職員で検討し、できる限り速やかに改善に取り組むようにしている。また、年に2回食事会を行い、利用者、家族と職員と一緒に食事をする事で交流の機会を設けている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1回程度、ユニット間での異動はあるが日常的に行き来がされており利用者や職員は顔馴染みとなっているため、支障は見られていない。この1年程は離職者もおらず、働きやすい職場環境づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては制限はしていないが、3ヶ月間の試用期間後に採用するようにしている。現在20代から60代の幅広い年齢層が勤務している。休憩時間は別の場所で過ごす事ができ、希望休暇も取りやすい。職員の資格習得にも勤務調整等の支援をしており、職員個々が向上心を持って働きやすい職場環境となっている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常的に利用者に対する言葉遣いや対応には充分配慮している。身体拘束に関するマニュアルも作成しており、全職員に資料を配布し話し合いの機会を持つようにしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修会の案内をし、積極的な参加を呼びかけている。また、勤務年数に応じたカリキュラムを作成し、個人の目標や気づきを具体的に文章にすることで自己研鑽ができるよう内部研修を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所としてもネットワーク作りには努めているが、個人的にも外部研修に参加したり、同業者同士の交流の機会を持ち、サービスの質の向上に繋がるように取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所申込み後に本人・家族共に何度も見学に来て頂き、他の利用者や職員と一緒に過ごし、住環境にも慣れて馴染みの関係を作ってもらいながら、最終的には利用者本人に決めていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の方法や洗濯の仕方など教えてもらったり、人生の先輩として昔の慣習などを教わることも多く、共に支えあう関係ができています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の基本情報や、日々の生活の中から利用者、家族の希望や思いの把握に努めている。困難な場合は、利用者の思いや意向を日々の行動や表情から汲取り、利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本的には利用者の担当を決めているが、毎日のミーティングや申し送りで利用者の課題やケアについて話し合っている。介護計画には家族、医師、職員等が参加し、利用者・家族の意向を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを基本としているが、毎日のミーティングや申し送りで、利用者の日々の心身の変化や家族の思いを受け止めて見直しを行い、現状に即した計画を利用者、家族、職員、関係者と話し合って作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に添って、病院への送迎や楽しみにしている日用品などの買い物の同行に柔軟に対応し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関わりを大切に、利用者、家族が安心して受診できるよう支援している。家族が同行できない場合は職員が付き添い、かかりつけ医との連携や家族間との橋渡しの役割を担うようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期について入居時に医師を含めた関係職員と話し合いを行なっている。家族の要望に応じて宿泊ができる体制ができている。昨年度に一人の利用者の看取りを家族、医療、介護が連携して行った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の利用者への言葉かけや行動に気になることがあればすぐにその場で話し合っ、利用者の誇りや尊厳を損なうことがないように努めている。記録や個人情報は事務室で大切に保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日のプログラムを想定しているが、起床が遅い方、入浴時間、買い物に行きたい方など、どのように過ごしたいか、日々の生活の中での個々の要望を取り入れている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の好きな利用者とは一緒に下ごしらえや調理、盛り付け配膳、片付けなども職員と一緒にしている。食事は利用者、職員が同じテーブルで安全に楽しく行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に入浴したい方、午後を希望する方が自由に入浴ができるように毎日準備されている。利用者は浴室からの見晴らしが良いこともあって楽しく入浴を待たれている。入浴を拒否する利用者には、シャワー浴、部分浴などで入浴の気分が味わえるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な料理(卵焼きなど)の時は嬉々として力を発揮したりする方、花壇を楽しむ方、洗濯物たたみ、縫い物などで日々の生活に変化や気晴らしができ、楽しみが持てるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くを散歩したり、利用者の要望に添って買い物に同行することで、ホームの中だけで過ごす事がないように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、居室・玄関・エレベーターには施錠をせず、利用者が自由な暮らしができるよう取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を消防署と行なっている。職場会議やミーティングなどで避難経路や避難場所、器具、連絡網、緊急通報装置などの確認をしている。運営推進会議などで協力が得られるように働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録に個々の食事、水分の摂取状況を明確に記載している。水分量の少ない利用者へは、コミュニケーションを深め会話しながら飲みものを促し、水分補給して貰うなど個々の対応に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングの一角に対面式の調理台がセットされ、利用者と職員との楽しい会話が交わされている。別の一角にはソファ式ベッドが置かれ、利用者が横になりたいときも居室だけに限らず、皆で過ごせるように配慮されている。浴室は明るい窓の外の景色が見渡せて利用者の楽しみとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入り口には、利用者と職員で作った絞り染めの暖簾が利用者の好みの色で掛けられている。居室には、入居前に使用していた筆筒や椅子などが置かれ、一人ひとりの生活の継続が感じられる空間となっている。</p>		